

保健・医療領域におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの現状と課題(2)

—スーパーバイザーに認識されたスーパービジョンの内容と成果—

日本福祉大学 山口みほ(002554)

金城学院大学 浅野正嗣(00693)

キーワード: スーパービジョン事例 扱った内容 得られた成果

1. 研究目的

近年、日本社会福祉士会や日本精神保健福祉士会、日本医療社会福祉協会等のソーシャルワーカーの職能団体において、スーパーバイザー養成の研修が実施されるようになった。しかし、研修の受講が必ずしもスーパービジョンの実施にむすびついていない現実がある。

本研究は、研修受講後に保健・医療領域で実際に取り組み始めたスーパービジョンの傾向や成果等の現状と課題を明らかにし、ソーシャルワーク・スーパービジョンの普及・促進の一助とすることを目的として行った。

2. 研究の視点および方法

スーパービジョン実践の現状及び課題を明らかにするためには、日常行われているスーパービジョンの内容とその枠組みを理解することが必要である。しかし、ソーシャルワーク・スーパービジョンと言っても、その概念・定義は多様に存在する。そこで今回は、ある程度スーパービジョンについての認識が共有されているスーパーバイザーを対象を絞り、スーパービジョンの現状を調査することとした。具体的には、日本医療社会福祉協会などで報告者らが講師を務めた同内容のスーパービジョン講座の受講者(医療ソーシャルワーカー)を対象とし、実際にスーパーバイザーとしてスーパービジョンを実施した事例から、その枠組みや内容、成果についての認識等を調査した。

1) 調査対象

2009年から2013年に日本医療社会福祉協会、愛知県医療ソーシャルワーカー協会、尾張スーパービジョン研究会などが主催したスーパービジョン講座及び研修会の参加者219名を調査対象とした。

2) 調査方法

郵送による質問紙法。

3) 調査項目

調査全体では、スーパーバイザーの基本属性、スーパービジョンの実施状況、スーパービジョンで扱った内容、困難を感じることやそれへの対処、スーパービジョンに対する考え等の項目を設定しているが、本報告でとりあげるスーパービジョン事例についての調査項目は以下に示す7つである。

①スーパーバイザーから見たスーパーバイザーの立場 ②スーパーバイザーの援助職の経験年数 ③スーパービジョンの形態 ④1回あたりの平均時間 ⑤開始から終了までの期間 ⑥扱った主な内容 ⑦得られた主な成果

3) 調査期間

2013年11月1日～11月30日

3. 倫理的配慮

- 1) 被調査者に対して文書で守秘義務及び回答の自由について明記し示した。
- 2) 被調査者が受講したスーパービジョン講座及び研修の主催者である日本医療社会福祉協会、愛知県医療ソーシャルワーカー協会、尾張スーパービジョン研究会に対して調査目的や内容などを文書で示し承認を得た。
- 3) 金城学院大学倫理委員会の承認を得た。

4. 研究結果

回答のあった112名のうち、スーパーバイザーとしてスーパービジョンを経験していたのは47名であった。そのうちの43名から107事例についての回答が得られた。

事例の回答者の基本属性は、平均年齢が40歳、ソーシャルワーク経験は10年以上20年未満が4割弱と最も多く、次いで20年以上30年未満が2.5割である。

107例の内訳をみると、約6割がスーパーバイザーの配属先の上司にあたるスーパーバイザーによって実施されている。また、半数が職歴3年未満のスーパーバイザーを対象としており、形態としては個別スーパービジョンが8割を占めている。スーパービジョンに要する時間は1回あたり60分未満が8割、実施期間は1日(回)が4割である。スーパーバイザーとして扱う内容は「介入方法」が7割、次いで「社会資源の利用・制度、法律の適応」「ワーカーと所属機関の関係」「ワーカー自身の理解」がそれぞれ約半数となっている。「ワーカーとスーパーバイザーの関係」が扱われたものは1割未満であった。スーパービジョンで得られた成果は7割が「視野の拡大」と答え、次いで「自己理解の促進」が6割となっている。一方、「タフネスの向上」との回答は1.5割にとどまった。

5. 考察

スーパーバイザー養成研修後実際にスーパービジョンを実施していた受講者は半数に満たない。また、実施されているスーパービジョンの課題としては、スーパービジョンにかかる時間や回数が限定的なものとなっていること、職場内スーパービジョンを中心とした展開になっていることもあってワーカーとスーパーバイザーの関係が十分に扱われていないこと、「支持的機能」に重きをおいた研修内容が提供されていたにも関わらず、成果としてのタフネスの向上が低位にあることなどが挙げられる。

本研究の結果は、対象者を特定の講師による研修受講者とし、同一の専門職種間で行われるものという従来のスーパービジョンの枠組みを抛りどころとして設問をしているため、限定的なものである。今後は対象の範囲を広げてさらに実態把握を進めたい。